



神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン]



平成27年9月 神戸市



神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]は、これから目指すべき神戸の都心像を、ビジュアルに表現することでわかりやすく共感・共有しやすいものにするに重きを置いて取りまとめたものです。

目次

○目指す都心の未来の姿と戦略的取り組み	
コンセプト	1
BE KOBE	3
3つの柱と8つの軸	5
○8つの軸に沿った取り組み	
「景観」に関する取り組み	7
「にぎわい」に関する取り組み	11
「生活・居住」に関する取り組み	15
「産業」に関する取り組み	19
「観光・文化」に関する取り組み「観光編」 ..	23
「観光・文化」に関する取り組み「文化編」 ..	27
「防災」に関する取り組み	31
「環境・エネルギー」に関する取り組み	35
「交通」に関する取り組み	39
○「都心の未来の姿」の過程とこれから	
策定過程	43
神戸の都心の「未来の姿」検討委員会	45
今後の予定	47



今日、日本の各都市は超高齢化、少子化に伴う人口減少社会に直面する中、国際競争力の強化や都市間競争において選ばれる都市となることが求められています。

このような状況の下、都市の成長力をどのように発揮し、将来に向けてどのようなまちづくりを行うべきかが非常に大きな課題であり、その方策を各都市が模索しています。

震災から20年を経過し、新たなステージを歩み始めた今、神戸の都心や三宮周辺の将来の姿を描き、日本だけでなく世界に貢献できる都市として発展していくことが、神戸の未来にとって大変重要であると考えました。

そこで、これまでのまちづくりの歩みを前提にしながらも新しい発想で、神戸らしい都心や三宮周辺の目指すべき姿を見定めるため、「300人会議」や「対話フォーラム」、「シンポジウム」、さらには「WEB等による意見募集」などを通してたくさんのご意見やご提案を頂き、それらを基に神戸の都心の「未来の姿」検討委員会や三宮構想会議などで議論を重ねてきました。

その結果、このたび神戸の都心の未来の姿「将来ビジョン」と三宮周辺地区の『再整備基本構想』を併せて策定することができました。これら神戸市が目指すべき姿をご一読いただき、神戸の未来の姿に想いを馳せ、その想いを行動に変えていただき、市民と民間事業者、行政が協働で、神戸の未来の姿の実現を推し進めていきたいと思っております。

神戸市長 久元 喜造

日々の刺激と物語が生まれる 美しき港町・神戸

～多文化・多世代交流 あなたが参加しているまち～



日々の刺激と物語が生まれる 美しき港町・神戸

～多文化・多世代交流 あなたが参加しているまち～

「刺激」とは、
多文化と身近に触れ合え、明治の開港から培われた
進取の気性とクリエイティビティに溢れる環境を表す。

「物語」とは、
海と山に囲まれ、都市機能と自然が調和するまちの中で、
暮らす人と訪れる人が出会い、結びつきを持ちながら、
新たな神戸の記憶が紡がれていくことを表す。



BE KOBE

BE KOBE

1. 何よりも「人」がまちの主役
2. KOBEを大好きな人、KOBEに誇りを持つ人がまちをつくる
3. 50年後、100年後にもずっと魅力的であり続ける

神戸市は、「住み続けたいまち、訪れたいまち、そして、継続的に発展するまち」をめざして、神戸の今と未来をデザインしていくことで、人間らしいあわせを実感できる創造都市「デザイン都市・神戸」を推進している。また、震災20年を機に、神戸で生まれた震災の教訓や知恵を集め、多くの人に発信するために「BE KOBE」のロゴとともに、“人”に焦点をあてた様々な取り組みを進めている。

神戸のリーディングエリアである都心においても、まちの魅力はそこに集う人が創るという考えのもと、「ダイバーシティ※1」や「ソーシャルインクルージョン※2」の風土形成や、「ヒューマンスケール」のまちづくりなど、「居心地の良さ」を軸に、訪れ、働き、住みたくなるまち、そして発展し続けるまちとして、目指すべき都心の将来像を示し、その実現に向けて各種施策・取り組みを進めていく。

※1 ダイバーシティ：異質や多様性を受け入れ、その違いを認め、活かしていこうという考え。

※2 ソーシャルインクルージョン：社会的に弱い立場にある人々を排除・孤立させるのではなく、共に支え合い生活していこうという考え。

Life



Business



Research

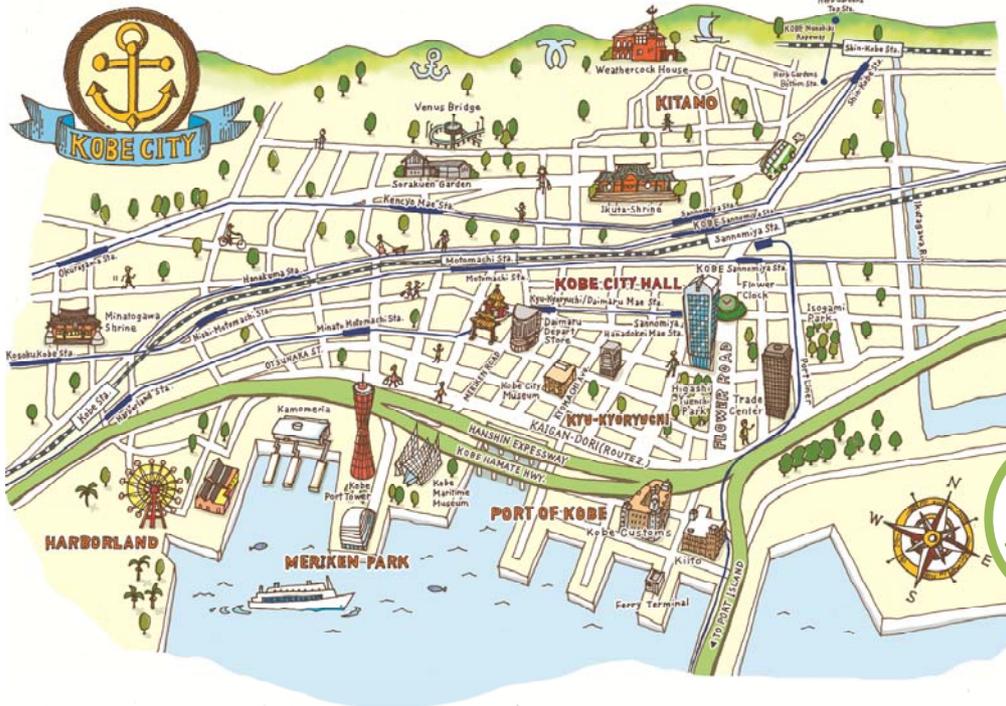


Travel

Create

エリア

3つの柱



1. 心地良いデザイン
2. 出会い、イノベーション、そして文化
3. しなやかで強いインフラ

8つの軸



都心の将来像を表現する3つの柱

1. 心地良いデザイン

瀬戸内の穏やかな気候に恵まれ、海と山を身近に感じられるコンパクトな都心の中に多種多様な交通インフラが発達し、活動しやすい空間が形成されている。まちなかではモザイク状に広がる拠点それぞれが、特色を際立たせながらも絶妙な調和を見せている。ここに美しい景観やわかりやすいまちの情報が加わり、誰もが心地良く過ごし、働き、活動することができる。

2. 出会い、イノベーション、そして文化

古くから国際色豊かな港町として発展してきた歴史と、神戸の特色であり魅力である「進取の気性」を活かし、多様な文化と新しい気風を取り入れながら、個性豊かな人やまちが育ち、神戸独自の文化がより一層醸成されている。国籍、年齢、性別などの垣根がなく、様々な人々が交流・融合することで技術革新や新産業の創出が起り、社会経済が持続的に、そしてグローバルに発展する。

3. しなやかで強いインフラ

阪神・淡路大震災を経験した神戸市として、復興の過程で培われてきた防災力とともに、環境負荷を低減しながら非常時にも機能を保持するエネルギーシステムや、地域と地域をつなぎ、誰もが動きやすく人にやさしい交通体系を備えている。これら安全・安心な社会インフラが都市活動を支えることで、50年後、100年後にもずっと魅力的なまちであり続ける。

都心に備える8つの軸



景観：あちこちで神戸を感じられるまちへ

にぎわい：次々と新しい人が訪れ、新たな出会いが生まれるまちへ

生活・居住：人がつながり、まちに溶けこみ、自分らしい生活がおくれるまちへ

産業：人とアイデアが融合し、新たな価値が創造されるまちへ

観光・文化：五感に響く心地良さと、おもてなしのあるまち、そして、港町としての歴史と文化の息づくまちへ

防災：不測の災害に対しても対応可能な、しなやかで強いまちへ

環境・エネルギー：環境に優しく、エネルギーをスマートに活用する持続可能なまちへ

交通：誰もが使いやすい交通手段が整い、歩く人が中心のまちへ



美しい海と山の景色を守り・育てる

神戸らしい、瀬戸内海と六甲山に囲まれた美しいまちを守り育て、都心の魅力と景観の維持・向上を図るため、50年後、100年後を見据えて、「建築物の高さなどを規制・誘導」に取り組む。



まちの玄関口から 神戸を感じる

鉄道やバスが集まり、常に多くの人々が行き交う三宮はまさに神戸の玄関口である。道路や広場と周りの建物が一体的にデザインされた心地良い空間であることが求められる。

そのため「三宮周辺地区の再整備に伴う景観形成」を行う。



佇まいとデザインを 感じながら歩く

人を主役にした神戸らしい景観と、それを感じながら歩いて楽しむまちを実現させる。

来訪者が歩いて楽しむ回遊ルートについては、低層部に店舗やギャラリーなどのにぎわいを生む施設を誘致することで、非日常的な空間を創出する。

旧居留地や北野などの歴史的に築きあげられた個性豊かなまちなみを守り、さらに磨きをかける。

また、「景観デザインコード」などにより、美しく調和したまちなみも新たに誘導していく。

景観

あちこちで
神戸を感じられるまちへ



音の風景を楽しむ

船の汽笛は神戸が港町であることを感じさせ、JAZZなどの音はハイカラなまち神戸を思い起こさせる。

都心で起こる喧騒を低く抑え、「神戸らしいサウンドスケープをデザイン」する。

まちの灯りに包まれる

日が暮れると、神戸は大人の顔になる。まちなみは、花、緑に灯りをまといミュージアムになる。「フラワーロード光のミュージアム」整備事業を進めるなど、うっとりするような物語のある光の風景の魅力を高めていく。



—未来—	
景観デザインコードの設定 【検討中】	建築物の再整備に合わせた景観形成
建築物の高さなどの規制・誘導手法の導入 【検討中】	
三宮周辺地区の再整備に伴う景観形成 【検討中】	
神戸らしいサウンドスケープ整備	
フラワーロード光のミュージアム 【実施中】	



港町ならではの水際のリゾートで憩う

倉庫街であった新港突堤西地区において、新港第一突堤でのホテル事業に続き、「新港第一突堤基部」の新たな開発事業など、「ウォーターフロントのにぎわいづくり」を行っていく。

港町の雰囲気を感じながら、朝の穏やかな静けさ、昼の港のにぎわい、夜の景色の煌めきを堪能できる、神戸を代表する地区に創り上げる。



それぞれの想いで 公園を楽しむ

例えば「東遊園地」のような都心にある公園や広場を、もっとたくさんの方が楽しく活用できる場として「活性化」する。

パソコンを持ち込んで仕事をしたり、家族や仲間と遊んだり、本を読んだり、緑に囲まれた空間で、自由に楽しみ、交流できる場にする。

また、市民が自発的にイベントを考え、実践していくことで、みんなが愛着をもって楽しめる公園にしていく。

海と山を感じながら にぎわいの中でくつろぐ

海や山を感じることで眺望路や、まちを回遊する人たちの動線が集まる場所を、多くの方が滞在し、交流する「にぎわいの拠点」としていく。道路空間の再配分を行い、車から人へ、空間の利用をシフトさせる。

まちの魅力をまちの人が創り・育てる



まちの人たちがまちの改善のための組織づくりを行い、「BID制度などを活用した神戸版エリアマネジメント」を行う。オープンスペースや商店街の通路など、たくさんの方が集まる場所で、まちの人たちが自らのまちを責任をもって魅力化していくことで、官民のパートナーシップによる地域活性化を行う。

※BID (Business Improvement District) : 地域内の地権者に課される共同負担金を原資とし、地域内の不動産価値を高めるために必要なサービス事業を行う組織を指す。



まちの新たな広がり生まれる

都心内でポテンシャルを活かしきれていないエリアが輝くために、「鉄道駅の新たな改札口」を考える。新たな魅力スポットや新しいビジネスが芽生える都心の成長の種として、その実現に取り組んでいく。



—未来—	
東遊園地の活性化 【実施中】	
第一突堤基部再開発 【検討中】	ウォーターフロントのにぎわいづくり
にぎわいの拠点づくり(鯉川筋) 【実施中】	
BID制度(エリアマネジメント) 【検討中】	三宮駅前空間BID他
	鉄道駅の新たな改札口



シーンにあわせて着替える

海風を感じながらのランニング、緑に癒されながらの登山など、自然豊かな神戸を楽しんだ後も、まちでのショッピングや仕事に向かうことができる。

様々なシーンにあわせて着替え、仲間と交流し、情報が得られるランナーズステーションなど、「まち遊びの拠点」をつくる。



子どもの笑顔でまちがつながる

子どものための場を整えることで、子どもたちに安心して都心を楽しんでもらえる、また、子育て支援や地域交流のプラットフォームとなる拠点を整備する。

「子どもの預かり施設」を設け、この拠点を通して、近年、増加する子育て世代の都心居住者同士の地域コミュニティの形成やにぎわいの創出を図る。



みんなで集まり 地産地消を楽しむ

生活・居住

人がつながり、まちに溶けこみ、自分らしい生活がおくれるまちへ

生産地とまちが近接する神戸。生産者と消費者が近づき交流することで、つながりがさらに広がり強くなる。

手を取り合って地産地消を進めるスタイルが、神戸には似合う。

消費者が生産者と出会い、神戸で生産されたものを買う、そして食べる、そんな場を都心で提供する「ファーマーズマーケット」などを開催していく。

まちの気配りを感じる

長く滞在するためには、心地良く休憩が取れることが大切。

まちの至るところに、管理されたベンチ、ゴミ箱やトイレがあることに加え、子育てをサポートするオムツ替えスペースや授乳室、さらには外国人に対応した案内や施設などをまちなかに整える。

化粧をなおし、身だしなみを整え、くつろぐことができる、心地良い「パウダールームやトイレ」なども備える。



魅力的な都心であり続ける

来訪者の玄関口となるエリアでは、「商業・業務機能の集積」を促進し、都市の魅力と風格を感じさせる『顔』づくりをめざす。

商業・業務機能と居住機能が共存するエリアについても、都心の魅力とにぎわいの維持・向上につながるような「都心居住を促進」する。

また、古くから外国人居留地を有してきた強みを活かし、多様な人々にとって快適な居住環境を整えていく。





素敵な人と新しい発想に出会う

心地良いまちには魅力的な人が集まってくる。
 クリエイティブな人たちが出会い、お互いを刺激し、新たなアイデアや事業を創出していく。
 そんな拠点となる空間が好アクセスな都心に。それが「神戸スタートアップオフィス」。



「発想」が かたちになるまち

例えば、小さな発想でも、神戸のまちなら、それが大きな可能性になる。
 神戸のまちでアイデアの卵が次々と孵化してはばたけるよう、積極的な支援メニューである「アクセラレーションプログラム」の提供と、有効な支援ができるネットワークの構築を進める。

また、新しい観点からアイデアを生み出す無限の可能性を持つ若者を積極的に支援し、若手起業家の育つまちにする。

さらに、ポートアイランドにおいて先進的な取り組みを進めている医療産業都市の強みを都心でも活かし、海外企業誘致や、広い範囲でのビジネスマッチングを図っていく。

—未来—

アクセラレーションプログラム	【検討中】
「神戸スタートアップオフィス」スペース	【検討中】
IT産業活性化、オープンデータ活用	【実施中】
地域商業の活性化	



「階級なし、実力主義。」

たった一人でも起業できるITの世界であるが、神戸は展望を持って官民連携による「IT関連産業の活性化」を図っていく。

また、「オープンデータ・ビッグデータ」を積極的に活用し、新たなサービスや事業を起こす。

©士郎正宗・Production I.G/講談社・「攻殻機動隊 新劇場版」製作委員会



夜も面白いことが 起こる予感がする

夜も楽しめるまちの仕掛けを行うことで、世界有数の神戸の夜景やまちのにぎわいを長く楽しむ。

夜を楽しむ取り組みにより、まちに住む人と商いをする人たちが交流し、「地域商業の活性化」につながる。



おもてなしの心を玄関口から感じる

神戸を訪れる人が到着して最初に目にする「玄関口を整備」し、明るく美しく、そして神戸を感じる空間とし、おもてなしの気持ちを表す。

知りたい神戸がわかる

神戸に着いたらまず「インフォメーションセンター」に行けば良い。

神戸を訪れる人がそう感じるような、わかりやすく、使いやすい情報を提供できる仕組みを整える。

案内サインシステムやWi-Fi環境の整備も充実させる。



観光

世界に誇れる 美しい夜景がまちを彩る

夜景はまさに世界に誇る“神戸の顔”。この美しさは、海と山に囲まれた地形と異国情緒溢れるまちなみが生み出す神戸ならではのもの。

光に包まれたまち、神戸をさらに魅力的なものにしていくため、港の形を美しく際立たせる水際のライトアップや、造船工場のクレーンなどのライトアップを行うなど「夜間景観の整備」を進める。

五感に響く心地良さと、おもてなしのあるまちへ



夜間景観整備	【取組中】
玄関口を整備	【検討中】
インフォメーションセンターの整備	【検討中】
外国人ハブの整備	
免税商店街	



外国人も心地が良い

外国人にとっての居心地の良さは神戸のアイデンティティ。

神戸の都心に行けば多様な国籍の人たちと交流できる。「外国人ハブ」に行けば、ガイドブックに載っていない最新の情報を、そこに集まる旅人が教えてくれ、宗教上や文化の違いから生じる問題を解決するための情報も得られる。

そんな外国人の居住者、滞在者のための活動拠点を丁寧に整えていく。

商店街がまるごと免税店に

個性的なアイテムやおしゃれなお店が揃う商店街。

海外からの来訪者が、気軽に神戸の素晴らしいアイテムを購入できるよう、商店街や商業エリアをまるごと「免税商店街」にする。





心地良い上質な音楽に、まちかどで出会う

六甲山の美しい景観、港から吹き込む潮風、そして上質な音楽がまちなかに流れる。五感に響く心地良い空間、音楽のあるたまり場を創り出すため、まちなかにぎわいスポットにクオリティの高い「ストリートミュージック」が流れる仕掛けを作る。



港町の歴史と文化に触れ 優雅な時間を過ごす

神戸には港町としての歴史と文化がある。

知的でおもむきのある空間で、仕事帰りなどに少し立ち寄って、その日の気分に合わせた本を選び、本に合わせたワインを飲みながら、神戸のシンボリックな景色をバックに一人で過ごす。

そんな「歴史と文化に触れ」、贅沢な時間を味わえる場をまちなかに。

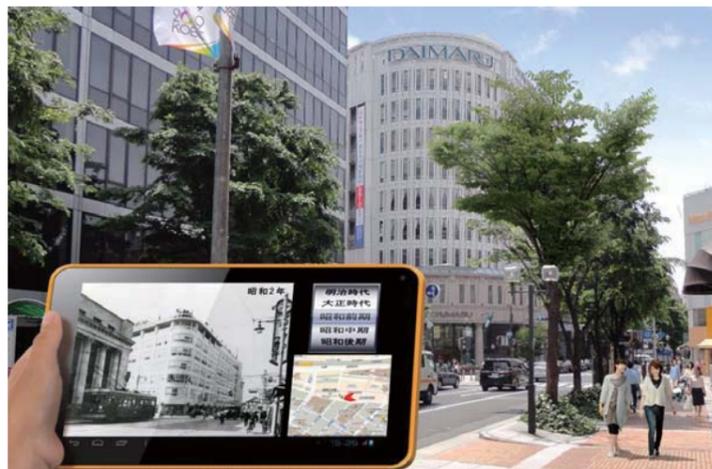
—未来—

歴史と文化に触れる空間 【検討中】

ストリートミュージック 【検討中】

ARをもちいたまちの情報提供

ガストロポリス 【取組中】



神戸市文書館提供（レファート写真コレクション）

まちなかで歴史を学ぶ

私のお気に入りの場所は、昔はどうだったのだろう。

新しいビルが建つこの場所は、阪神・淡路大震災の時、被害を受けたのだろうか。

知らない神戸の歴史、忘れてはならない出来事を「ARを用いた情報提供」を行うことで、振り返り学ぶことができるようにする。

※ AR：Augmented Reality（拡張現実）

世界レベルの ローカルフードを堪能する

神戸といえばKobe Beef! それだけじゃない。

都心の近郊から採れる旬菜・鮮魚・鮮肉と、世界に誇る腕利きのシェフ&パティシエが織りなす神戸の食文化を「ガストロポリス（食都）」としてグローバルに発信していく。





いざという時に、多言語で情報が得られる

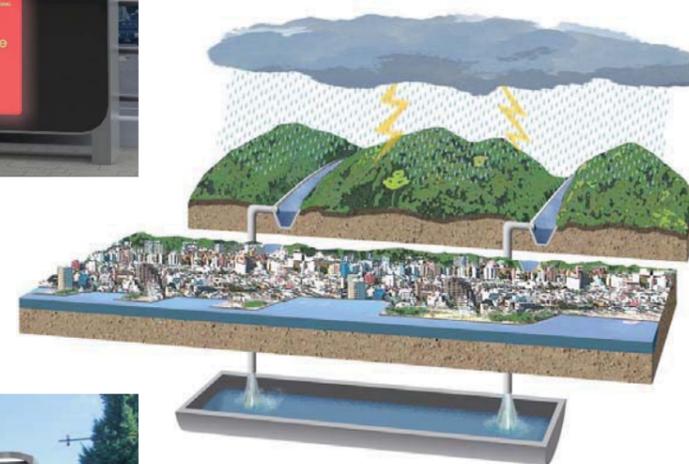


どこで災害にあったとしても、国際都市として多国籍な人々に対応した「多言語サインシステム」で安全な場所に導いてくれる。

緊急時にスムーズな情報発信ができる機能を、まちなかの電話BOXや自動販売機のデジタルサイネージに付加していく。



雨のゲリラが来ても守ってくれる



温暖化等による豪雨災害に対応するため、都心部を流れる河川に「雨水の一時貯留施設」を設け、陰からまちを守る。

備えた安心の上で 華やかに賑わう

防災

不測の災害に対しても
対応可能な、
しなやかで強いまちへ

被災した神戸にとって、災害への備えは当たり前でないといけない。

防災力を売りにするのではなく、当然のように備える。見えなくても確かな防災力に支えられた安心、それが「さすが神戸」と思われる防災スタイル。

災害時に多くの帰宅困難者が集まる空間が必要なので、その空間をにぎわいの「駅前オープン空間」として整備する。

また、防災上重要な役割を担う水の確保について、地下水や雨水などの利用を検討する。



未来

駅前オープン空間の整備 【検討中】	多言語サインシステム
雨水貯留施設の整備 【検討中】	
街キャンプ 【検討中】	

Study Survival 楽しみながら生き抜く力を学ぶ

阪神・淡路大震災の記憶を伝えていく。
デザインされたイベントで楽しみながら大事なことを伝える。
広域避難地となるまちの公園で「街キャンプ」。
ライフラインが止まっても、生きていく術を楽しみながら学ぶ。

いつか必ず来る天災に備えるために。





高効率で強靱なエネルギーを賢く選択する



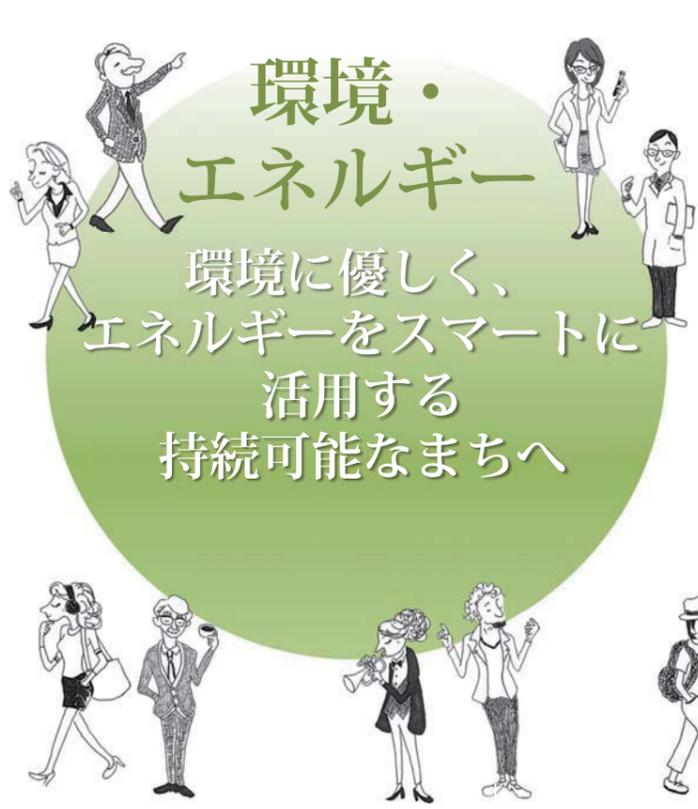
昼に電気をたくさん使うビル
夜に電気をたくさん使うビル

熱を捨てて冷たくしたいビル
熱を作って温めたいビル

自家発電施設を持つビル
自家発電施設を持たないビル

「電気・熱融通システム」でつなげ、高効率で強くしなやかに。

災害が起こっても、事業が継続できるエリアとして、ビジネス面での国際競争力を向上させる。



環境・エネルギー

環境に優しく、エネルギーをスマートに活用する持続可能なまちへ

「生田の森」の心地良さをまちへ延ばす

神戸の都心にはかつて、^{いくた}生田の森が広がっていた。

その森の拡張を思わせる、花と緑と生物に溢れた心地良い空間を創り出す。

空間に余裕のないコンパクトなまちで、ゆったりした場を創り出すため、まちを立体的に活用し、「ルーフトップパーク」の整備などにより、花と緑のネットワークを広げていく。

—未来—

電気・熱融通システム 【検討中】	ルーフトップパークの整備
コミュニティサイクル (コベリン) 【取組中】	
未利用エネルギーの活用 【取組中】	

進取の気性をエネルギーにも

未来のクリーンエネルギーと言われていた水素。さらに水素以外も活かされていないエネルギーがたくさんある。“日本一エネルギー効率の良いまち”神戸となるために、「神戸に強みのある未利用エネルギーを活用」した社会を実現させていく。



地球に優しい自転車を使いこなす

車の代わりに、「コミュニティサイクル」を利用する。ちょっとした移動は自転車でもちを楽しみながら。ポートも台数も拡大し、マナーアップも同時に図る。





個性あるエリアを歩いてめぐる



新神戸に着いたら、まずは北野の異人館へ。
ハーバーランドで遊んだら、次は元町商店街へ。

個性あるエリアがわかりやすく繋がっている、歩いてめぐって楽しいまち。

そのために必要なルートをも、例えば「新神戸と北野を繋ぐデッキ」などで整備していく。

わかりやすく使いやすい 料金体系で気軽に利用する

都心部のこの範囲内なら交通機関を1日何度乗っても料金は変わらない。

初めて神戸を訪れる外国人でも簡単に利用できる。

そんな「ゾーン内均一料金制度」を導入し、気軽に回遊できるまちにする。



交通

誰もが
分かりやすく使いやすい
交通手段が整い、
歩く人が中心のまちへ

人と街に優しい乗り物が まちの個性をつなぐ

神戸の都心は歩くことでその魅力を感じられる。
みちは人のための空間。

人のための空間として、何よりも歩行者と公共交通を優先し、自動車がなくても快適に移動できる「効率的な交通システム」を整えていく。

LRTからパーソナルモビリティまで様々な新しい交通手段、シェアリングサービスや自動運転などの新しい仕掛けも積極的に検討する。

わかりやすいバスターミナルで他のまちとつながる

神戸から他都市へバスで行くならあそこ。
行けば必ず目的のバスがある。
そんな中長距離バスの発着場が集約された「新たなバスターミナル」を整備していく。



効率的な交通システム	【検討中】	→
新神戸-北野デッキ	【検討中】	→
ゾーン内均一料金制度	【検討中】	→
新バスターミナル	【検討中】	→



↓ 対話フォーラム

↑ 神戸の未来のまちづくり300人会議

↓ 都心の未来を考えるシンポジウム



43

「都心の未来の姿」の策定過程

年	月	取 組
平成25年	12月～1月	第1回 意見募集 「都心の良いところ、良くないところ、未来の姿」
平成26年	3月	神戸海港都市づくり研究会 「神戸都心エリアの進化を促すJ R三ノ宮駅周辺整備・活性化に向けた提言」 受理
		第1回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 「都心の良いところ、良くないところ、未来の姿」
	7月	第2回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 「これからの神戸の都心が誇るべき神戸らしさとは」
	8月	第2回 意見募集 「これからの神戸の都心が誇るべき神戸らしさとは」
		市民会議 「もっとききたい、みんなの想い～神戸の未来のまちづくり300人会議～」開催
	9月	第3回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 「都心のコンセプト・枠組みの案」
	10月	対話フォーラム 「市長と描こう 都心の未来」開催 第2回 「デザイン都市・神戸」創造会議 「神戸の都心の未来の姿」
11月	シンポジウム 「都心の未来を考えるシンポジウム」開催	
平成27年	2月	第4回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 方向性を検討すべき3つの論点について
		中央区民まちづくり会議 安心定住部会・都心活性化部会 「神戸の都心の『未来の姿』」「三宮周辺地区再整備基本構想」への提案 受理
	3月	中間発表 基本的考え方 公表 市会 未来都市創造に関する特別委員会 「神戸の未来都市創造に向けた提言書」 受理
	6月	第5回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 将来ビジョン策定素案（パブリックコメント案）
	7月～8月	パブリックコメント （「神戸市民の意見提出手続に関する条例」に基づく案件）
9月	策定	

神戸の都心の『未来の姿』検討委員会



構成メンバー

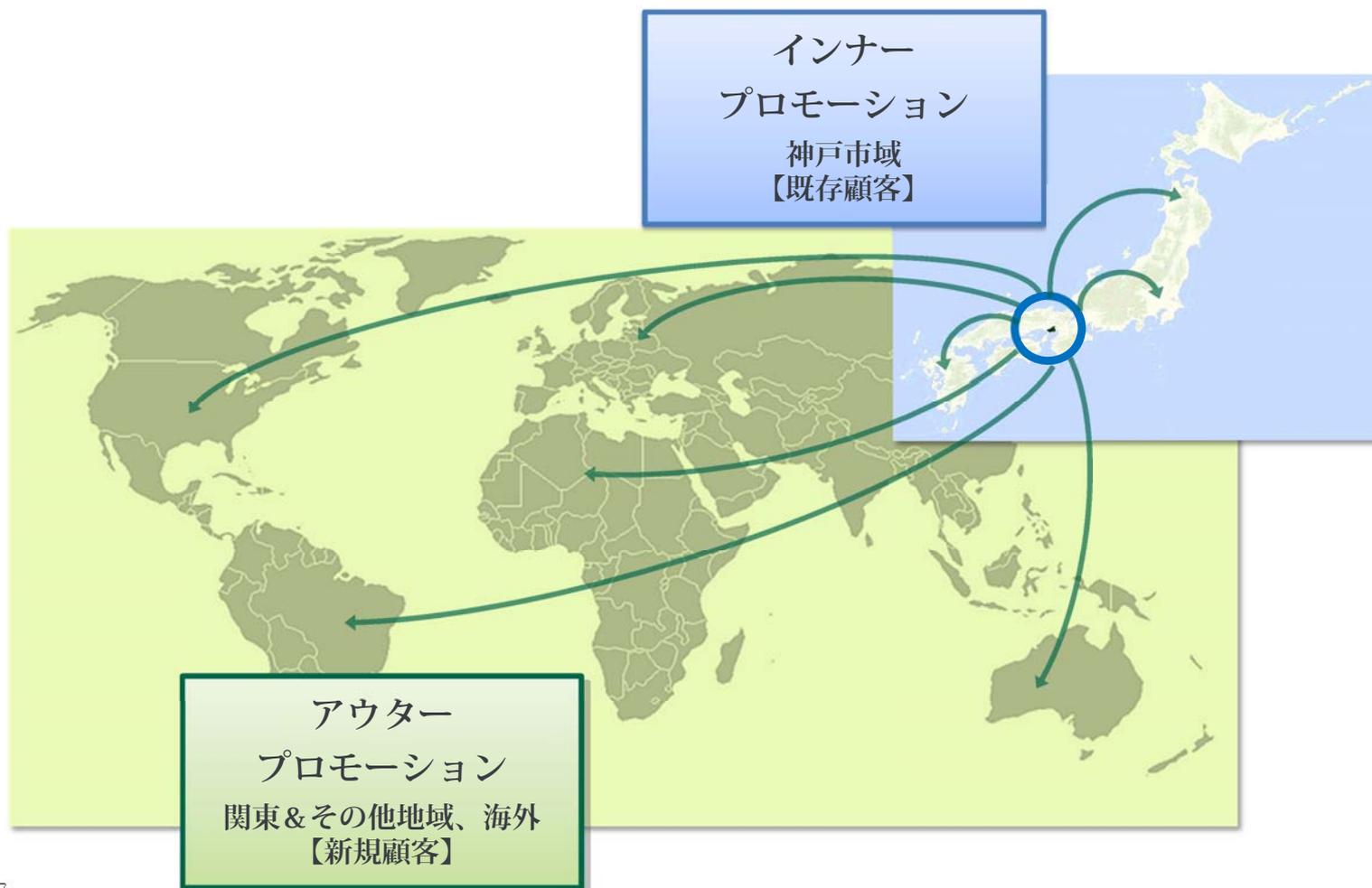
区 分	氏 名	所 属 ・ 役 職
地元組織代表	まちづくり協議会	浅木 隆子 北野・山本地区をまもり、そだてる会 会長
		小田 俱義 フラワーロード沿道まちづくり協議会 会長
		久野 茂樹 三宮北部地域の安全・安心なまち推進協議会 会長
		久利 計一 K O B E三宮・ひと街創り協議会 会長
		坂本 罔昭 三ノ宮南まちづくり協議会 総括総務委員
		清水 俊博 トアロード地区まちづくり協議会 会長
		曹 英生 南京町景観形成協議会 代表委員
		富岡 良典 旧居留地連絡協議会 常任委員長
		永田 耕一 三宮中央通りまちづくり協議会 会長
		奈良山 貴士 みなと元町タウン協議会 まちなみ委員長
		古川 勝 三宮東まちづくりの会 会計理事
		松下 綽宏 ハーバーランド運営協議会 会長(第1回)
		松添 雄介 同上(第2回～)
三浦 繁男 センターサウス町おこし会 会長		

45

区 分	氏 名	所 属 ・ 役 職
代 市 表 民	自治会	岩佐 光一朗 神戸市自治会連絡協議会 会長
	婦人会	玉田 はる代 神戸市婦人団体協議会 会長
交 通 事 業 者 代 表	鉄道事業者	石原 敏孝 阪神電気鉄道(株) 経営企画室 課長(第1回)
		湯山 佐世子 同室 課長補佐(第2～4回)
		村田 豊喜 同都市交通事業本部 工務部長(第5回～)
		奥田 英雄 西日本旅客鉄道(株) 近畿総括本部企画課 担当課長
		平野 剛 同上(第2回～)
		小林 隆一郎 神戸市交通局 次長(第1回)
		宮本 一郎 同上(第2回～)
		庄 健介 阪急電鉄(株) 都市交通事業本部都市交通計画部 部長(第1～4回)
		奥野 雅弘 同上(第5回～)
		横山 章 神戸新交通(株) 常務取締役
バス事業者	上杉 雅彦 (公社) 兵庫県バス協会 会長→(H27.9現在同顧問) (第1～5回)	
	長尾 真 (公社) 兵庫県バス協会 会長(第6回～)	
経 済 界	経済団体	植村 一仁 (一社) 神戸青年会議所 法制顧問 →(H27.9現在) 同会議所 監事
		植村 武雄 神戸商工会議所 都市力創造委員会 委員長
		松田 茂樹 (一社) 神戸経済同友会 顧問
学 識 経 験 を 有 す る 者	交通計画	小谷 通泰 神戸大学大学院 海事科学研究科 教授
	経 済	加藤 恵正 兵庫県立大学 政策科学研究所 教授
	都市計画	小浦 久子 大阪大学大学院 工学研究科 准教授 →(H27.9現在) 神戸芸術工科大学 芸術工学部 教授
	デザイン	末包 伸吾 関西大学 環境都市工学部 教授 →(H27.9現在) 神戸大学大学院 工学研究科 教授
	商業・観光	柚木 和代 (株) 大丸松坂屋百貨店執行役員 大丸神戸店長 →(H27.9現在) (株) 博多大丸 代表取締役社長
	エバーサルデザイン	関根 千佳 同志社大学 政策学部 教授
	エネルギー	中尾 正喜 大阪市立大学大学院 工学研究科 特任教授 →(H27.9現在) 同研究科 特命教授
	夜間景観	長町 志穂 京都造形芸術大学 客員教授
防 災	牧 紀男 京都大学 防災研究所・巨大災害研究センター 教授 →(H27.9現在) 京都大学 防災研究所 教授	

46

今後の予定（将来ビジョンの実現とシティプロモーション）



47

プロモーションに必要なこと

- 持続可能なプロモーション体制とシステムの構築
行政だけでなく、各地域の市民からも発信の担い手を生み出すしくみを作り、それらが連携して、持続的にプロモーションを進めていく体制を整える。
- 各種メディア及び神戸市の既存広報との連携
地元メディアとの連携とともに、関東、海外とも連携して広範囲な発信を進める。神戸市の他のプロモーションとも連携して発信し、相乗効果を生み出す。
- プロモーションツールの制作
多文化&多世代の交流を生み出すツールを制作する。
- 効果測定
プロモーションに持続性をもたせ、次年度へ向け改善を行う。
- 段階的かつ継続性のある情報発信
短期的、長中期的な戦略を立て、効果的な情報発信を進める。

今後の取組

- 先導プロジェクトの推進、将来ビジョンの進行管理
- ターゲットの特性や需要にあわせたプロモーション
- 将来ビジョンのバージョンアップに向けた検討

48

神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]について

本資料には多くの施策案とイメージを掲載しています。

これらは、今後神戸の都心が目指すべき姿を表したものであり、実施計画や事業を決定・拘束するものではなく、取り組みの方向性を示すものです。

掲載の施策については今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。

神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン]

発行：平成27年9月
神戸市住宅都市局計画部計画課
〒650-8570
神戸市中央区加納町6丁目5-1
TEL 078-331-8181（代表）



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBETD

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

神戸市広報印刷物登録 平成27年度第324号（広報印刷物規格A-1類）



<http://www.city.kobe.lg.jp/kobetoshin/>

問い合わせ先
住宅都市局計画部計画課
都心三宮再整備担当
TEL: 078-322-6934
mail: kobe-toshin@office.city.kobe.lg.jp